



浜松のイノベーションに宇宙人も興味津々。少し難しいテーマだけに、分かりやすく教えてくれる人はどんなかな？と探してみたら、ものづくりの聖地、静岡大学の浜松キャンパスに着陸。学長で工学博士の伊東幸宏氏にイノベーションヒーム！



伊東学長、イロハの「イ」の字で有名なテレビジョンが生まれたのはここ静岡大学浜松キャンパスなんですか？



そうですね。当時、静岡大学工学部の前身である浜松工業高等学校で助教に就いていた高柳健次郎先生が、1926(大正15)年に世界で初めてブラウン管(電子式)に「イ」の字を映し出すことに成功しました。ラジオ放送も始まっていなかった時代から、空想を現実にした人物といえます。まさにイノベーションですね。



ものづくりの街・浜松の土台造りに一役買ったんですね。その「イノベーション」という言葉を最近、よく耳にするようになったのですが、どうしてでしょうか。



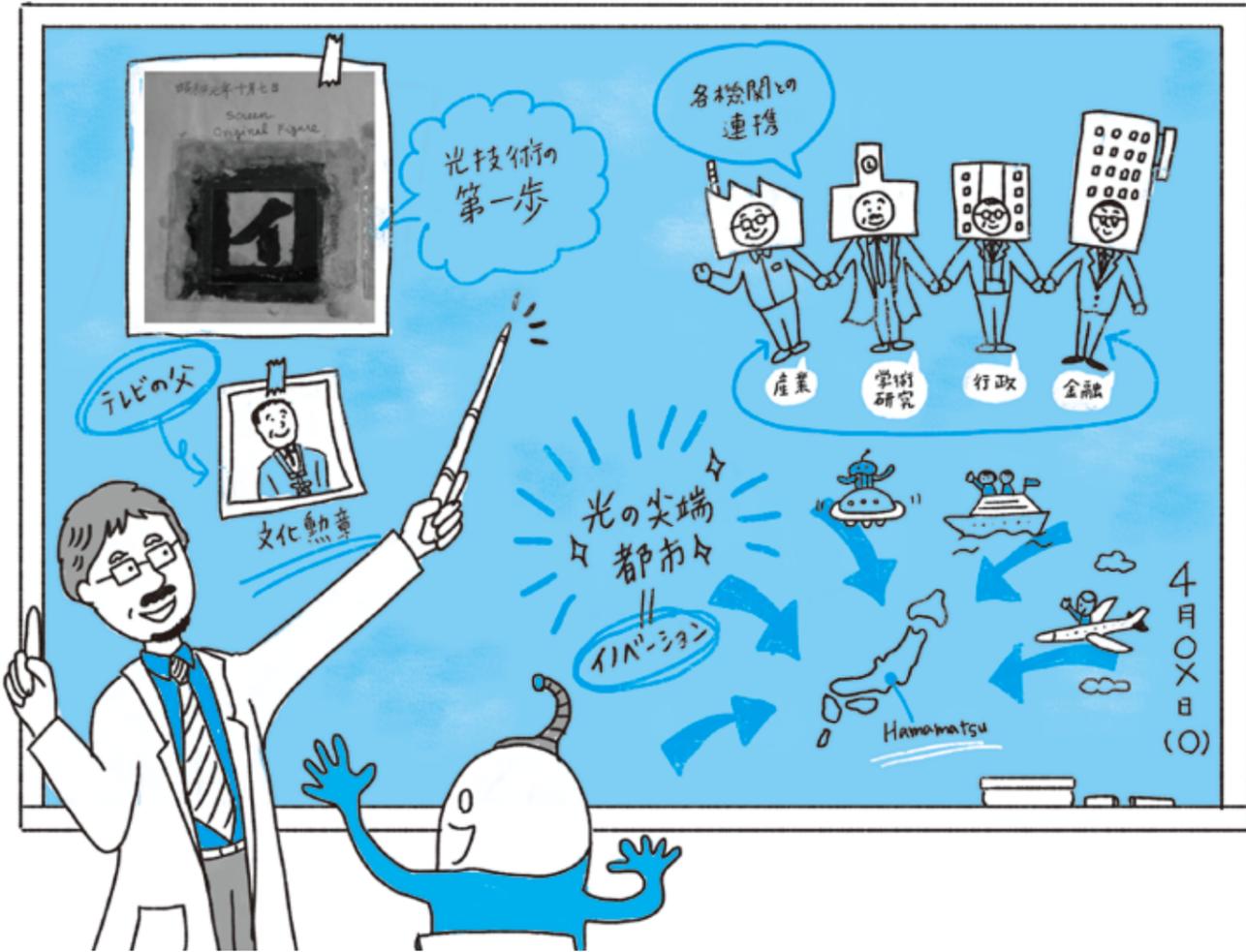
これまでの右肩上がりだった経済成長の時代が終わり、企業の海外流出による産業空洞化、少子高齢化、人口の減少など閉塞感が漂っています。そんな中「なんとかしなければ」「ここらで大きく流れを変えて元気を取り戻さない」という意識をみんなが共有し始めていて、新産業が生まれることに期待が寄せられているからだと思います。



なるほど。では、イノベーションはどいうやったら起きるのでしょうか？



イノベーションを起こそうとがんばっている人たちを後押しすることが大事だと思います。浜松は行政、産業界、大学、銀行の連携がとれており、イノベーションを起こすために必要な共同研究、人材育成、技術の高度化、資金調達、企業立地、起業などのさまざまな支援を行っています。本学でいうと、次世代のものづくり人材育成センターは、工学部学生全員にもものづくり体験実習、加工工作技術の体験学習を実施するとともに、地域の小中高等学校と連携し児童生徒へのものづくり教育、理数教育の支援活動を行っています。また、学生の実習や研究用機器の試作、加工などを担当しています。地域企業の技術者の育成にも力を入れており、自動車を中心とする輸送用機器産業の現場で働く人に最新デジタルプロセス技術や金属加工技術などの人材育成を



# 教えて、学長！なぜ今、イノベーションなんですか？



**伊東幸宏** いとうゆきひろ  
1987年早稲田大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。同年、同大学理工学部電子通信学科助手。1990年静岡大学工学部情報知識工学科助教授。2000年静岡大学情報学部教授(創造科学技術大学院教授兼務)。2007年より同大学情報学部長に就任。2010年より学長。工学博士。自然言語処理、知的教育システム等に興味を持つ。電子情報通信学会、情報処理学会、言語処理学会、教育システム情報学会、日本認知科学会各会員。

よう、街の魅力があふれているといいですね。現在の市の取り組みを市民みんなでバックアップすることで、その魅力が増すのではないのでしょうか。浜松のイノベーションとは、まさしく市民性が発揮されることなのでしょう。

さあ、みんな「やらないか」！



どんな産業が注目されていますか？



市を代表する6つの産業分野(本誌7・8ページ)が新たなリーディング産業として注目されています。浜松らしいといえば、高柳先生から受け継がれる光技術といえるかもしれません。光技術は医療や通信、分析、計測、OA機器など幅広い分野に応用されます。例えば、全身を映すだけで健康状態が分かるような鏡や、単身赴任のお父さんが時空を越えてまるでそばにいるかのように感じられる技術——「遠隔家族愛」というのですが(笑)、こんなことが将来、実現する可能性もあります。



イノベーション、楽しそう。市民も何か協力できますか？



例えばイノベーションで光産業が世界から注目され、浜松が光の世界拠点「光の先端都市」になれば、優秀な研究者が家族を連れてやって来ます。その際に家族にも浜松を楽しんでいただける